

【平成22年度学則】
看護学専攻 博士前期課程
I. 専攻共通科目

授業科目	単位認定者	講義概要
看護教育学特論	中島 恵美子 (成人看護学)	P.177 参照
看護教育学演習	浅沼 奈美 (精神看護学)	P.177 参照
看護管理学特論	中島 恵美子 (成人看護学)	P.178 参照
看護研究方法論	岸田 泰子 (母子看護学・助産学)	P.178 参照
看護政策学特論	大木 幸子 (地域看護学)	P.179 参照
家族看護学特論	今留 忍 (基礎・在宅看護学)	講義概要
		家族の機能と形態の変化を探究し、家族看護学における理論や研究の動向について学習する。また、事例を通して、家族の今日的課題をアセスメントし、家族看護の役割と機能を考察、理解を深める。
		学習目標
		1. 家族の機能と形態の変化及び家族の今日的課題を説明する。 2. 家族看護学の発展過程および基礎的理論を理解する。 3. 家族看護介入論を理解する。 4. 家族看護の支援のあり方を理解する。
		授業計画
		1. 家族とは、家族の機能と形態の変化 2. 家族看護学の発展過程 3. 家族看護学の基礎的理論 4. 家族アセスメントの方法 5. 家族アセスメントの方法 6 - 7. 家族看護学における看護介入—家族エンパワーメントモデル 8 - 9. 家族看護の支援のあり方—慢性疾患患者を抱える家族 10. 家族看護の支援のあり方—がん患者を抱える家族 11. 家族看護の支援のあり方—高齢者を抱える家族 12 - 13. 家族看護の支援のあり方—難病患者を抱える家族 14 - 15. 家族看護の支援のあり方—在宅看護を行っている家族
評価方法		
		受講態度(20%)、レポート(80%)

II. 地域保健看護分野

授業科目	単位認定者	講義概要
高齢者看護学特論	兎澤 恵子 (高齢者看護学)	生涯発達の視点からライフステージとしての高齢期をとらえ、高齢者とその家族の健康について探求する。高齢者に関わる看護援助の理論と方法、健康生活レベルのアセスメント、他職種との連携、サポートシステム、高齢者看護分野における看護施策、国際的な医療の動向を学び、専門的ケア提供を行う能力と研究能力を講義と討議により修得する。
		学習目標
		1. ライフステージとしての高齢期を理解する。 2. 我が国の人口動態と疾病構造をふまえて高齢者とその家族の健康問題を理解する。 3. 高齢者看護分野における看護施策、国際的な医療の動向を学ぶ。
		授業計画
		1. ガイダンス 2-3. ライフステージとしての高齢期(1)-(2) 4. 我が国の人口動態と疾病構造 5-6. 高齢者の健康問題(1)-(2) 7-8. 高齢者介護と家族の健康問題(1)-(2) 9-11. 高齢者に関わる看護援助の理論(1)-(3) 12-13. 健康生活レベルのアセスメント(1)-(2) 14-15. 高齢者看護分野における看護施策および国際的な医療の動向(1)-(2)
		評価方法
		受講態度(20%)、レポート(60%)、口頭試問(20%)

高齢者看護学演習	兎澤 恵子 (高齢者看護学)	講 義 概 要	高齢者とその家族の健康に影響を与える要因をふまえ、高齢者に関わる看護援助の理論と方法、健康生活レベルのヘルスアセスメント、コンサルテーション、他職種との連携、サポートシステム、高齢者看護学分野における看護施策、国際的な医療の動向を学び、専門的ケア提供を行う能力と研究能力を演習により修得する。
		学 習 目 標	1. 高齢者に関わる看護援助の理論を理解する。 2. 高齢者の生活レベルのヘルスアセスメントを理解する。 3. 高齢者看護学分野における現状と課題を考察する。
		授 業 計 画	1. ガイダンス 2. 高齢者に関わる看護援助の理論 3. 高齢者に関わる看護援助の理論 4. 高齢者およびその家族の看護の実践(栄養管理) (2回) 5. 高齢者およびその家族の看護の実践(身体活動) (2回) 6. 高齢者およびその家族の看護の実践(皮膚) (2回) 7. 高齢者およびその家族の看護の実践(認知) (3回) 8. 高齢者およびその家族の看護の実践(介護負担) 9. 高齢者およびその家族の看護の実践(虐待) 10. まとめ
		評 価 方 法	受講態度(20%)、レポート(60%)、口頭試問(20%)
		講 義 概 要	高齢者看護に関する専門的な看護援助の理論と方法、健康生活レベルのアセスメント、サポートシステム、他職種との連携に関する知識と技術を活用し、健康問題をもつ高齢者とその家族を援助するための、卓越した実践能力、スタッフ及び他職種との連携・調整・相談能力、教育・研究支援能力の基礎を実習を通して修得する。
		学 習 目 標	1. ライフステージとしての高齢期を理解する。 2. 我が国の人口動態と疾病構造をふまえ高齢者とその家族の健康問題を理解する。 3. 高齢者看護分野における看護施策、国際的な医療の動向を学ぶ。
高齢者看護学実習	兎澤 恵子 (高齢者看護学)	授 業 計 画	1. ガイダンス 2. ライフステージとしての高齢期 3. 我が国の人口動態と疾病構造 4. 高齢者の健康問題 5. 高齢者介護と家族の健康問題 6. 高齢者に関わる援助の理論 7. 健康生活レベルのアセスメント 8. 高齢者看護分野における看護施策および国際的な医療の動向
		評 価 方 法	実習態度(20%)、レポート(50%)、口頭試問(20%)、その他(10%)
		講 義 概 要	地域看護の高度専門職業人としての保健師が、個人、家族、特定集団、地域社会全体を対象とし、行政サービスのサブシステムとして看護の機能を適用していく上で、必要とされる概念・理論、コンピテンシーやスキルについて理解し、効果的な活動のあり方と保健師の専門性について考察する。
		学 習 目 標	1. 個人・家族、集団、地域への看護ケアの概念・理論と実践力を修得できる。 2. 住民との協働によるコミュニティへの支援方法を理解できる。 3. コミュニティ・エンパワメントの展開過程を理解できる。
		授 業 計 画	1. ガイダンス/地域看護学の概念枠組み 2. 地域看護活動の視点 3. 個人への支援の理論(1)(オレムのセルフケア理論) 4. 個人への支援の理論(2)(保健信念モデル) 5-6. 家族支援の理論(1) 7-8. 特定集団への支援の理論(1)-(2) 9. 地域への支援の理論(1)(コミュニティ・アズ・パートナーモデル) 10. 地域への支援の理論(2)(社会的学習理論, プリシード・プロシードモデル, エスノグラフィ) 11-15. 地域看護における個と地域の連動性(1)-(5)
		評 価 方 法	参加度40%、プレゼンテーション60%
地域看護学特論	大木 幸子 (地域看護学)	講 義 概 要	地域看護の高度専門職業人としての保健師が、個人、家族、特定集団、地域社会全体を対象とし、行政サービスのサブシステムとして看護の機能を適用していく上で、必要とされる概念・理論、コンピテンシーやスキルについて理解し、効果的な活動のあり方と保健師の専門性について考察する。
		学 習 目 標	1. 個人・家族、集団、地域への看護ケアの概念・理論と実践力を修得できる。 2. 住民との協働によるコミュニティへの支援方法を理解できる。 3. コミュニティ・エンパワメントの展開過程を理解できる。
		授 業 計 画	1. ガイダンス/地域看護学の概念枠組み 2. 地域看護活動の視点 3. 個人への支援の理論(1)(オレムのセルフケア理論) 4. 個人への支援の理論(2)(保健信念モデル) 5-6. 家族支援の理論(1) 7-8. 特定集団への支援の理論(1)-(2) 9. 地域への支援の理論(1)(コミュニティ・アズ・パートナーモデル) 10. 地域への支援の理論(2)(社会的学習理論, プリシード・プロシードモデル, エスノグラフィ) 11-15. 地域看護における個と地域の連動性(1)-(5)
		評 価 方 法	参加度40%、プレゼンテーション60%
		講 義 概 要	地域看護の高度専門職業人としての保健師が、個人、家族、特定集団、地域社会全体を対象とし、行政サービスのサブシステムとして看護の機能を適用していく上で、必要とされる概念・理論、コンピテンシーやスキルについて理解し、効果的な活動のあり方と保健師の専門性について考察する。
		学 習 目 標	1. 個人・家族、集団、地域への看護ケアの概念・理論と実践力を修得できる。 2. 住民との協働によるコミュニティへの支援方法を理解できる。 3. コミュニティ・エンパワメントの展開過程を理解できる。

地域看護学演習	山口 佳子 (地域看護学) 大木 幸子 (地域看護学)	講義概要	地域看護の高度専門職業人としての保健師が、個人、家族、特定集団、地域社会全体を対象とし、行政サービスのサブシステムとして看護の機能を適用していく上で、必要とされる概念・理論、コンピテンシーやスキルについて、事例演習等を通じて理解を深め、効果的な活動のあり方と保健師の専門性について探究する。
		学習目標	1. 地域看護実践における個人・家族への支援技術を養う。 2. 地域看護実践における地域診断及び地域活動への計画立案ができる。 3. 地域看護実践における課題解決過程から施策化への展開することができる。
		授業計画	1. ガイダンス/地域看護における個人・家族への支援技術 2. 個別支援技術（個別支援事例における支援技術の検討 6回） 3. 地域診断技術（地域課題の抽出）（3回） 4. 地域への支援技術（地域課題の解決にむけた支援計画の立案）（5回）
		評価方法	課題への取り組み状況及びレポートから総合的に判断する。（100%）
		講義概要	地域看護の高度専門職業人としての保健師が、個人、家族、特定集団、地域社会全体を対象とし、行政サービスのサブシステムとして看護の機能を適用していく上で、必要とされるコンピテンシーや高度な専門的スキル（相談、教育、連携・調整、社会資源の活用・開発等）について、行政における保健師の実践活動を通して理解を深めることにより、効果的な活動のあり方や保健師の専門性について研究する能力の基礎を修得する。
		学習目標	1. 実習施設の特性に応じた保健師活動の特徴を理解する。 2. ケースを担当し、個人・家族のアセスメントを行い、支援の展開を行う。 3. グループあるいは地域のアセスメントを行い、支援の展開を行う。 4. 実習組織内の地域看護領域にかんするマネジメントの実際を学ぶ。
地域看護学実習	大木 幸子 (地域看護学)	授業計画	(実習場所：保健所/保健センター/行政の保健・福祉部門/包括支援センター/在宅介護支援センター等) 1. 地域看護現場でのケース支援実習 2. 地域看護現場でのコミュニティ支援実習
		評価方法	実習レポート（60%）、参加度（40%）
		講義概要	在宅看護に関連する制度・理論・研究の動向について学習する。また、健康障がいを持ちながら地域で生活する人々とその家族への支援について理解し、在宅看護の専門性について探求する。
		学習目標	在宅看護に必要な知識を修得し、在宅療養者とその家族への援助方法を考察する。
在宅看護学特論	大金 ひろみ (基礎・在宅看護学)	授業計画	1. 在宅看護の関連法規 2. 在宅ケアのシステム・政策論 3. 在宅ケアに関わる基礎的理論 4-6. 在宅看護における研究の動向 7. 在宅看護における倫理的課題 8-12. 健康課題をもつ療養者と家族への在宅看護（難病、精神疾患、がん、小児） 13. 特殊な技術を伴う在宅看護（口腔ケア） 14. 在宅における専門職の人材育成 15. 地域連携とチームケア
		評価方法	参加度（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）
		講義概要	在宅看護に関連する制度・理論・研究の動向について学習する。また、健康障がいを持ちながら地域で生活する人々とその家族への支援について理解し、在宅看護の専門性について探求する。
		学習目標	在宅看護に必要な知識を修得し、在宅療養者とその家族への援助方法を考察する。
		授業計画	1. 在宅看護の関連法規 2. 在宅ケアのシステム・政策論 3. 在宅ケアに関わる基礎的理論 4-6. 在宅看護における研究の動向 7. 在宅看護における倫理的課題 8-12. 健康課題をもつ療養者と家族への在宅看護（難病、精神疾患、がん、小児） 13. 特殊な技術を伴う在宅看護（口腔ケア） 14. 在宅における専門職の人材育成 15. 地域連携とチームケア

在宅看護学演習	大金 ひろみ (基礎・在宅看護学)	講義概要
		健康障がいを持ちながら地域で生活する人々とその家族に対する援助方法について文献学習及び演習を通して理解を深め、看護実践のあり方を習得する。
		学習目標
		在宅看護活動について、各自の関心あるテーマを選定し、課題を明確化できる。課題を分析し、解決するための看護の果たすべき役割について考察する。
		授業計画
		1. 各自の関心あるテーマの選定 2. 選択したテーマに関する文献レビューとディスカッション 3. 選択したテーマに関する看護実践活動の見学・参加 4. 課題の明確化と分析 5. 看護の役割についての検討・考察 (15回で実施)
		評価方法
		参加度(30%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(40%)
在宅看護学実習	大金 ひろみ (基礎・在宅看護学)	講義概要
		複雑な状況にある健康障がいを持つ人々とその家族が、地域においてより健康でQOLの高い生活を維持・増進するための看護介入を行い、看護実践能力を高める。他職種との連携や調整、相談、社会資源の有効利用、教育・研究の能力と倫理的問題を解決・改善する能力を養う。
		実習目標
		健康障がいを持つ人々とその家族のアセスメントを行い、ニーズにもとづいた看護を実践する。
		授業計画
		学生の研究課題に応じて、訪問看護ステーション、各種通所施設、グループホーム、地域連携部門等において実習を行う。
		評価方法
		実習への参加度(50%)、レポート(50%)
基礎看護学特論	今留 忍 (基礎・在宅看護学)	講義概要
		看護論を通して、「看護の本質とは何か」、「看護学とは何か」を考察し、科学的根拠に基づいた看護学の確立を目的に探求する。また、「ひとをみる」について、医学の様相を医学史を調べ、看護と医学の対象論的特性を探求する。
		学習目標
		看護の本質の学的研究の一環として、看護学について探求的考察をする。
		授業計画
		文献購読とプレゼンテーションを行う。 毎回、プレゼンテーション後は、テーマに沿ったディスカッションをする。 1-7. 「看護理論」 文献は各自で選定する。 8-15. 「近代医学の史的基盤」(川喜田愛郎著)を使用する。
		評価方法
		受講態度(10%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(50%)
基礎看護学演習	今留 忍 (基礎・在宅看護学)	講義概要
		看護学および基礎看護学に関する研究、隣接領域に関連する文献購読を行い、サブテーマと看護学の研究方法についてまとめてみる。
		学習目標
		看護学および基礎看護学における研究方法の基礎を修得する。
		授業計画
		1-7. 看護学および基礎看護学領域に関するテーマを中心とした国内外の文献学習 8-10. 研究方法論について 11-15. 研究課題の絞込み
		評価方法
		プレゼンテーション(60%)、参加度(40%)

遺伝看護学	小野 正恵	講義概要	大多数の疾患には、程度の差こそあれ遺伝的要因が存在する。遺伝に関する知識や配慮は、日常の医療における看護の質的向上をもたらす。さらに遺伝性疾患への対応を学ぶことは、看護の原点を見つめ、本質を究める事につながる。遺伝学の知識を高めた上で、実際の医療現場でどのように活用し、看護を充実させていくかという観点で講義する。杏林大学医学部付属病院等の症例や議論となった問題等を取り上げ、臨床に応用できる力を養う。																
		学習目標	遺伝学の基礎を身につけ、代表的遺伝性疾患患者に対して望ましい看護が出来るようになること。さらに自発的に学習し、考察を深められるようにする。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 健康とは何かを考える</td> <td>2. 遺伝学の基礎(2回)</td> </tr> <tr> <td>3. 代表的遺伝性疾患(2回)</td> <td>4. 遺伝看護とは</td> </tr> <tr> <td>5. 遺伝カウンセリング入門</td> <td>6. 生殖補助医療と出生前診断、遺伝子治療</td> </tr> <tr> <td>7. 医療と倫理</td> <td>8. 事例検討(3回)</td> </tr> <tr> <td>9. 遺伝カウンセリング ロールプレイ(2回)</td> <td>10. 遺伝病との共生、医療の役割</td> </tr> </table>	1. 健康とは何かを考える	2. 遺伝学の基礎(2回)	3. 代表的遺伝性疾患(2回)	4. 遺伝看護とは	5. 遺伝カウンセリング入門	6. 生殖補助医療と出生前診断、遺伝子治療	7. 医療と倫理	8. 事例検討(3回)	9. 遺伝カウンセリング ロールプレイ(2回)	10. 遺伝病との共生、医療の役割						
		1. 健康とは何かを考える	2. 遺伝学の基礎(2回)																
		3. 代表的遺伝性疾患(2回)	4. 遺伝看護とは																
		5. 遺伝カウンセリング入門	6. 生殖補助医療と出生前診断、遺伝子治療																
7. 医療と倫理	8. 事例検討(3回)																		
9. 遺伝カウンセリング ロールプレイ(2回)	10. 遺伝病との共生、医療の役割																		
評価方法	受講態度(小テスト、ロールプレイや討議を含む・60%)、レポート(40%)																		
講義概要	看護師を対象として法医学の基礎と臨床法医学を教授する。特に、児童虐待、ドメスティック・バイオレンス、高齢者虐待や性犯罪被害者の診察補助、法律上根拠となりうる記録方法、治療・予後の判定の補助や心理的ケアに加えて、必要な法的手続きを援助できる法医学を研究し、これを実務上に応用できる臨床法医学を専門とする看護師を育成する。																		
学習目標	法医看護学の基礎と応用を学習し、臨床の場で実践できる能力を身につける。																		
法医看護学	松村 桜子 (医療科学Ⅰ)	授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 臨床法医学と法医看護学の概要</td> <td>2. 法医看護師の役割</td> </tr> <tr> <td>3. 法医病理学(1)内因性急死 (2)外因死</td> <td>4. 法医病理学</td> </tr> <tr> <td>5. 法医病理学(3)創傷各論</td> <td>6. 子ども虐待への対応</td> </tr> <tr> <td>7. ドメスティック・バイオレンスへの対応</td> <td>8. 高齢者虐待への対応</td> </tr> <tr> <td>9. 性犯罪被害者への対応</td> <td>10. 救急医療に関わる諸問題とグリーフケア</td> </tr> <tr> <td>11. 遺体の検死、検案、解剖の現状</td> <td>12. 看護分野における医療事故とその過失</td> </tr> <tr> <td>13. 法医看護師とリスクマネジメント</td> <td>14. 諸外国における法医看護師の役割</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>	1. 臨床法医学と法医看護学の概要	2. 法医看護師の役割	3. 法医病理学(1)内因性急死 (2)外因死	4. 法医病理学	5. 法医病理学(3)創傷各論	6. 子ども虐待への対応	7. ドメスティック・バイオレンスへの対応	8. 高齢者虐待への対応	9. 性犯罪被害者への対応	10. 救急医療に関わる諸問題とグリーフケア	11. 遺体の検死、検案、解剖の現状	12. 看護分野における医療事故とその過失	13. 法医看護師とリスクマネジメント	14. 諸外国における法医看護師の役割	15. まとめ	
		1. 臨床法医学と法医看護学の概要	2. 法医看護師の役割																
		3. 法医病理学(1)内因性急死 (2)外因死	4. 法医病理学																
		5. 法医病理学(3)創傷各論	6. 子ども虐待への対応																
		7. ドメスティック・バイオレンスへの対応	8. 高齢者虐待への対応																
		9. 性犯罪被害者への対応	10. 救急医療に関わる諸問題とグリーフケア																
11. 遺体の検死、検案、解剖の現状	12. 看護分野における医療事故とその過失																		
13. 法医看護師とリスクマネジメント	14. 諸外国における法医看護師の役割																		
15. まとめ																			
評価方法	受講態度(30%)、レポート(30%)、口頭試問(30%)、その他(10%)																		
講義概要	地域看護、高齢者看護に関する国内外の文献を抄読し、海外とわが国の比較を行うとともに今後のあり方について討議を行う。																		
学習目標	国内外の論文の批判的講読をとおして地域看護、高齢者看護に関する理解を深める。																		
ジャーナルクラブ	大木 幸子 (地域看護学) 兔澤 恵子 (高齢者看護学) 山口 佳子 (地域看護学)	授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 地域看護に関する政策についての論文購読(5回)：大木幸子</td> </tr> <tr> <td>2. 高齢者看護に関する世界の動向についての論文購読(5回)：兔澤恵子</td> </tr> <tr> <td>3. 地域における保健師活動についての論文購読(5回)：山口佳子</td> </tr> </table>	1. 地域看護に関する政策についての論文購読(5回)：大木幸子	2. 高齢者看護に関する世界の動向についての論文購読(5回)：兔澤恵子	3. 地域における保健師活動についての論文購読(5回)：山口佳子													
		1. 地域看護に関する政策についての論文購読(5回)：大木幸子																	
		2. 高齢者看護に関する世界の動向についての論文購読(5回)：兔澤恵子																	
		3. 地域における保健師活動についての論文購読(5回)：山口佳子																	
		評価方法	単位認定者(大木先生)：プレゼンテーション60%、参加度40%																
		講義概要	自己の研究課題を明確にすると共に、独自の理論や研究方法を探求し、適切な研究計画を立案する。計画に基づいて研究を進めていく。																
学習目標	自己の研究課題に応じた研究方法を選択し、研究を行う。																		
特別研究 (論文指導)	今留 忍 (基礎・在宅看護学)	授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 研究課題の絞込み</td> <td>2. 研究方法の選択</td> </tr> <tr> <td>3. 研究計画の立案</td> <td>4. フィールドワーク</td> </tr> <tr> <td>5. フィールドワークにおける体験のフィードバック</td> <td></td> </tr> </table>	1. 研究課題の絞込み	2. 研究方法の選択	3. 研究計画の立案	4. フィールドワーク	5. フィールドワークにおける体験のフィードバック											
		1. 研究課題の絞込み	2. 研究方法の選択																
		3. 研究計画の立案	4. フィールドワーク																
		5. フィールドワークにおける体験のフィードバック																	
		評価方法	提出された論文(90%) 取り組み態度(10%)																

特別研究 (論文指導)	大木 幸子 (地域看護学)	講義概要	各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を調査、実験などによりデータを収集し論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。
		学習目標	各自の関心課題についての学術論文を作成する。
		授業計画	研究計画及び実施、論文作成を進行に応じて、検討課題を発表し討議する。 1. 研究課題と研究計画の検討 2. 先行研究のクリティーク 3. 研究方法の検討 4. 研究計画書の作成 5. 研究データの収集と分析方法の検討 6. 研究結果の分析 7. 研究結果の考察及び課題の検討
		評価方法	提出された論文 (90%) 取り組み態度 (10%)
特別講義Ⅱ (認知症研究の最近の進歩:看護・基礎・臨床)	大瀧 純一 (看護看護教育学専攻) 小池 秀海 (神経生理学) 浅沼 奈美 (精神看護学)	講義概要	認知症に関する研究はまさに日進月歩であり、特に基礎医学、臨床医学における進歩は目覚ましいものがある。このような最新の知見を学び知識の整理をすることは、看護のどの分野においても益することが多いと考え、特別講義として設定した。 講義は精神看護学の大瀧純一教授(6回)が、認知症の定義、解明が進む原因遺伝子や画像診断、治療薬の進歩について、小池秀海教授(7回)は認知症患者の示す症候学や検査方法の進歩と最近の知見を、浅沼奈美准教授(2回)が認知症患者のケアや政策面での最近の進歩についてそれぞれ講義する。
		学習目標	認知症とはどのような病気であるかを、臨床症状、検査、診断、治療、患者とのかかわり、さらには今までに明らかになっている原因について修得する。
		授業計画	1. 認知症とはどのような疾患か 2. 原因は遺伝によるものか 3. 診断に有力な検査法 4. 臨床症状の推移 5. 治療方針 6. 現在の治療薬 (15回実施)
		評価方法	単位認定者(大瀧先生):受講態度(50%)、レポート(30%)、口頭試問(20%)
特別演習Ⅰ (エイズ対策)	大木 幸子 (地域看護学)	講義概要	HIV感染症を巡る健康課題の特性を sexual health及びsocially Vulnerableの視点を踏まえて理解する。また、予防から陽性者支援までの包括的対策に関する効果的方法論について、文献及び活動事例をとおして探求する。
		学習目標	1. HIV感染症の健康課題としての特性を理解する。 2. 効果的なHIV対策を展開するために必要な個別支援技術の基礎的能力を修得する。
		授業計画	1. HIV感染症をめぐる動向 2. HIV感染症の病態と治療 3. HIV感染症対策の変遷と課題 4. HIV感染症と社会構造～VulnerabilityとStigma～ 5. SexualityとSexcial health(1) 6. SexualityとSexcial health(2) 7. HIV対策のストラテジー～予防・相談・検査・ケアの包括的展開～ 8. HIV対策のストラテジー～当事者との協働～ 9. MSMへのHIV対策の実際(1) 10. HIV検査・相談における支援方法 11. HIV検査・相談における支援方法～ロールプレイ～ 12. HIV陽性告知と陽性者支援のあり方 13. HIV陽性告知と陽性者支援のあり方～ロールプレイ～ 14. MSMへのHIV対策の実際(2) (新宿2丁目のL Tに参加) 15. まとめ
		評価方法	プレゼンテーション(60%)、参加度(40%)

特別演習Ⅱ (地域保健行政論)	大木 幸子 (地域看護学)	講義概要
		地域保健行政におけるトピックスをとりあげ、政策立案・執行・評価の過程における地域のグループやコミュニティへの支援方法に関する概念を理解する。また、公と民のパートナーシップに基づく公共活動が注目される中、それらの住民自治を具現化する諸条件を、活動事例及び文献より探求する。
		学習目標
		1. 公共性の議論の理論的背景を理解できる。 2. 地域で進行している現状の課題を個の課題から公共性の視点から捉え分析できる。 3. 公共性の再構築にむけた市民と協働した地域活動のために必要な視点、技術を養う。
		授業計画
		1. ガイダンス/公共性をめぐる議論の動向 2. 公共哲学の諸潮流(1) (アンナ・ハーレント及びハーバーマスの公共哲学) 3. 公共哲学の諸潮流(2) (モラルサイエンスの公共哲学) 4. 社会的格差と公共性の役割(2回) 5. 公共性とソーシャルキャピタル(2回) 6. 個への支援から地域の課題解決への戦略演習(7回) 7. まとめ
		評価方法
		プレゼンテーション(60%)、参加度(40%)

Ⅲ. 看護ケアマネジメント分野

授業科目	単位認定者	講義概要
精神看護学特論	大瀧 純一 (看護看護教育専攻)	精神的な問題を持つ人々に看護援助を行う上で基礎となる司法、精神医学、臨床心理学、カウンセリング技術を学び、それらを含むアプローチの仕方を学ぶ。具体的には精神保健福祉、病態、DSM-IVによる診断、治療法、心理検査および心理療法の理解を深め、精神看護の専門的なアプローチの実践及び研究の課題を探求する。
		学習目標
		1. 対象理解の方法としてDSM-IVによる診断学及び、心理検査法や様々な評価方法を学び、最新の治療法についても知識を深めることができる。 2. 精神保健福祉看護の課題を理解し、わが国の実践および研究課題を考えることができる。 3. 精神看護の専門アプローチの実践及び課題を考えることができる。
		授業計画
		1. オリエンテーション・・・精神を病むということ 2. 人格の成長発達理論と社会環境 3. メンタルヘルス領域における評価法及び心理検査 4. 今日の精神科における診断・治療と看護(1)統合失調症・非定型精神病 5. 今日の精神科における診断・治療と看護(2)気分障害・不安障害 6. 今日の精神科における診断・治療と看護(3)適応障害・人格障害・発達障害 7. 今日の精神科における診断・治療と看護(4)PTSD・心身症 8. 今日の精神科における診断・治療と看護(5)薬物・アルコール依存症 9. 今日の精神科における診断・治療と看護(6)老人性痴呆・高齢期精神疾患 10. 精神科における治療理論と看護への応用(1)精神療法・精神分析 11. 精神科における治療理論と看護への応用(2)認知療法・論理療法・行動療法 12. 精神科における治療理論と看護への応用(3)森田療法・芸術療法 13. 精神科における治療理論と看護への応用(4)カウンセリング・集団精神療法 14. わが国の精神保健福祉施策と地域ケア 15. 今日の精神保健福祉看護の課題 レポート発表及び討議
		評価方法
		レポート(50%)、口頭試問(50%)、その他(0%)
精神看護学演習	浅沼 奈美 (精神看護学)	講義概要
		精神的な問題をもつ人たちに提供する看護や他職種との連携に基づく看護援助を評価し、多職種との連携方法や社会資源の活用法などを講義や討議、演習を通して学び、専門技術やスタッフ教育のための相談能力を高める。
		学習目標
		1. 事例検討やスーパービジョン、リエゾン精神看護の基礎的な理論や技法を学ぶ。 2. 小集団の事例検討会のスーパービジョンの演習を通し、援助的な事例検討を行える能力を身につける。 3. ケア提供者自身の対象関係のあり方を理解し、精神看護へ生かすことができる。
		授業計画
		1. オリエンテーション…人を育む視座 2. スーパービジョンの理論と意義 3. スーパービジョンの理論と課題 4. リエゾン精神看護の理論と実際(5回) 5. コンサルテーション・事例検討の実際 6. 事例検討演習(2回) 7. 課題討議 8. 事例検討演習(2回) 9. 精神看護におけるスーパービジョンの課題…レポート発表による討議
		評価方法
		受講態度(20%)、レポート(40%)、口頭試問(40%)

精神看護学実習	大瀧 純一 (看護看護教育学専攻)	講義概要	精神疾患患者との間に適切な援助関係を形成する経験を通して、あらゆる人々への精神的援助に関する看護の実践能力を高め、看護職への支援のあり方や他職種との連携や調整、臨床実践に根ざす研究・教育を担い得る能力と倫理的な問題の調整能力も合わせて養う。
		学習目標	臨床場における精神看護学、リエゾン看護学の状況を修得する。
		授業計画	1. 統合失調症患者の看護実習 2. うつ病患者の看護実習 3. リエゾン看護実習
		評価方法	
			実習態度(50%)、レポート(30%)、口頭試問(20%)
看護医療 安全教育論	川村 治子 (医療安全管理学)	講義概要	総論では、多様な看護業務を2群5種に分類し事故防止の考え方を明確にする。各論では診療の補助・療養上の世話の各業務を安全に遂行し、患者の観察を適切に行うために求められる知識・技術を根拠とともに教授する。
		学習目標	看護事故の構造と事故防止の考え方を理解し、看護事故防止教育上必要な知識を修得する。
		授業計画	1-4. (総論)看護事故防止の考え方 5-8. (各論)注射事故防止 9. 内服与薬事故防止 10. 輸血・経管栄養事故防止 11. チューブ管理事故防止 12. その他の診療の補助事故防止 13-15. 患者間違い、新人の医療事故防止、まとめ
		評価方法	
			受講態度(40%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)
医療安全管理論	川村 治子 (医療安全管理学)	講義概要	医療安全管理のための指針や組織の構築、安全管理者の役割と権限、リスク情報の収集・分析・対策・評価の手法、組織内人的資源の院内教育への活用、及び医療訴訟に関する法的知識を修得させ、組織横断的な医療安全取り組みの実際を通じて医療安全管理の考え方を教授する。
		学習目標	医療安全管理の潮流、医療安全管理の実際、医療事故の法的問題に関する知識を修得する。
		授業計画	1-2. わが国の医療安全対策の流れ 3-6. 病院における医療安全管理の実際 7. 産業界の安全対策 8-10. 医療事故の法的問題 11-13. 看護師がからむ刑事医療過誤 14-15. テーマに基づき発表
		評価方法	
			受講態度(40%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)
看護医療安全 教育・医療安全 管理論演習	川村 治子 (医療安全管理学)	講義概要	看護師には3つの安全教育が求められる。1つは行為者・提供者としての安全教育である。これは診療の補助や療養上の世話を安全に行うためのものである。2つ目は観察者としての安全教育である。これは、患者の病態悪化を最小限にくいとめるために的確迅速な観察・判断能力を培うものである。3つ目は、チームにおける情報伝達・共有の要としての安全教育である。これら3つの教育を新人に実践的に行う方法として、シーンとシナリオによる教育ツールを作成する。
		学習目標	受講者それぞれの診療科・病棟の特性に合わせて、有効な新人の看護事故防止教育ツールを作成できる。
		授業計画	1. シーンとシナリオによる看護事故防止教育ツールの概要の理解 2-4. 受講者の診療科・病棟特性に合わせた新人教育の要点整理 5-6. 要点整理に合わせてシーンイメージの作成 7-9. シーンのシナリオ作成 10-13. シーンとシナリオに合わせた安全教育解説書の作成 14. 新人教育ツールの発表 15. まとめ
		評価方法	
			受講態度(30%)、作成した教育ツールの完成度(70%)
成人看護学Ⅰ (がん看護A)特論	中島 恵美子 (成人看護学)	P. 181 参照	
成人看護学Ⅰ演習	中島 恵美子 (成人看護学)	P. 181 参照	
成人看護学Ⅱ (がん看護B)特論	中島 恵美子 (成人看護学)	P. 182 参照	
成人看護学Ⅱ演習	中島 恵美子 (成人看護学)	P. 182 参照	

成人看護学Ⅲ (クリティカルケア看護) 特論	加賀谷 聡子 (成人看護学)	講義概要	クリティカルケア看護に必要とされる看護活動について学ぶ。具体的には、看護師の役割、クリティカルケアを必要とする場面での看護支援、患者とその家族に対する精神的ケアと社会的サポート、看護スタッフ管理などについて、講義を通し知識を修得する。
		学習目標	1. 危機理論などの諸理論をもとに、クリティカルな状況にある患者および家族の状況を理解することができる。また、これらの理論を用いて、有効な援助を考えることができる。 2. クリティカルな状況にある患者の看護ケアに必要なアセスメントについて理解を深め、エビデンスに基づく看護介入について学ぶ。 3. クリティカルな状況において生じる倫理的問題について理解し、看護援助について考えることができる。
		授業計画	1. クリティカルな状況にある患者・家族の支援 2. 侵襲的ケアを受ける患者の緩和ケア 3. 症状マネジメント 4. 治療選択における意思決定と倫理的問題への支援 5. 患者とその家族のLoss & Grief (30回で実施)
		評価方法	参加度(30%)、レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)
		講義概要	特別講義Ⅱ(クリティカルケア看護)で修得した知識に基づき、クリティカルケア看護における看護師の役割について、国内外の研究動向や看護活動の実施場面を見学し、看護実践のあり方を演習により修得する。
		学習目標	1. クリティカルな状況にある患者および家族に対する有効な看護援助について、事例を通して具体的に考えることができる。
成人看護学Ⅲ (クリティカルケア看護) 演習	加賀谷 聡子 (成人看護学)	授業計画	1. 重症患者、侵襲的治療を受ける患者・家族の支援 について事例分析 2. 症状マネジメントについて事例分析 3. 倫理的問題について事例分析 4. 患者・家族の意思決定について事例分析 (15回で実施)
		評価方法	参加度(30%)、レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)
		講義概要	P. 183 参照
		学習目標	
成人看護学実習	中島 恵美子 (成人看護学)		
母子看護学特論	岸田 泰子 (母子看護学・助産学)	講義概要	女性の性と生殖における対象の特性と問題状況の特性を理解し、専門的ケア提供を行うための基礎的能力を修得する。小児と家族を発達の見点から捉え、対象の特性や看護問題を理解し、専門的ケアを提供する基礎的能力を修得する。
		学習目標	1. リプロダクティブヘルス/ライツの意義を理解し、日本及び諸外国の現状を理解する。 2. 人間のセクシュアリティの特徴を理解し、ライフサイクル各期に起こりやすい問題を把握し援助のあり方を考察する。 3. 子どもと家族の発達段階と課題を理解する。
		授業計画	1-5. 女性の健康とリプロダクティブヘルス/ライツ 6-10. 人間の健康とセクシュアリティ 11-15. 子どもの健康と家族の発達
		評価方法	受講態度(50%)、レポート(50%)
		講義概要	
		学習目標	

母子看護学演習	岸田 泰子 (母子看護学・助産学)	講義概要	女性の各ライフステージに関わる健康課題を持つ個人や集団、小児の発達や小児特有な疾患に関わる健康課題を持つ患児に対する援助方法、看護介入技法等を理解し、専門的ケア提供及びケア開発に関わる能力を演習を通して修得する。
		学習目標	女性および子どもの健康について関心のあるテーマを選定し、問題を分析し、解決するための専門的援助のありかたを考察する。
		授業計画	1. 各自の関心あるテーマを選定する。 2. テーマに基づいて、文献および事前調査を行う。 3. 問題点の分析を行う。 4. 解決のために専門的援助のありかたを考察する。 (15回実施)
		評価方法	受講態度(50%)、レポート(50%)
		講義概要	性と生殖に関する健康課題を持つ女性や周産期にある女性と小児の発達や小児特有な疾患に関する健康課題を持つ患児とその家族を援助するための、卓越した実践能力、スタッフ及び他職種との連携・調整・相談能力、教育・研究支援能力の基礎を実践を通して修得する。
		学習目標	周産期を中心として母子及び家族の健康上の問題を解決するための実践的な能力を習得する。
母子看護学実習	岸田 泰子 (母子看護学・助産学)	授業計画	学生の実習目標に応じて、総合周産期医療センター他で実習を行う。
		評価方法	実習態度(40%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)
		講義概要	国際的視野を養うために海外文献を講読し、海外の医療動向を知りわが国の現状と比較し、その課題を明確にし、今後のあり方を講読と討議を通し修得する。
		学習目標	英文の論文を読み、理解することができる。
		授業計画	1. 統合失調症患者の論文① 2. 統合失調症患者の論文② 3. 統合失調症患者の論文③ 4. 統合失調症患者の論文④ 5. 神経症患者の論文 6. うつ病患者の論文① 7. うつ病患者の論文 8. うつ病患者の論文③ 9. うつ病患者の論文④ 10. リエゾン看護の論文① 11. リエゾン看護の論文② 13. リエゾン看護の論文③ 14. リエゾン看護の論文④ 15. リエゾン看護の論文⑤
		評価方法	受講態度(50%)、口頭試問(50%)
ジャーナルクラブ (看護マナジメント分野)	大瀧 純一 (看護看護教育学専攻)	講義概要	各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を調査、実験などによりデータを収集し論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。
		学習目標	学術論文の書き方を修得する。
		授業計画	1. 論文の検索方法 2. 学術雑誌の種類 3. インパクトファクターなどについて 4. 研究方法 5. 論文の種類 6. 緒言 7. 方法 8. 結果 9. 考察 10. 文献 11. 実際に書いてみる1 12. 発表の仕方
		評価方法	受講態度(100%)
		講義概要	各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を調査、実験などによりデータを収集し論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。
		学習目標	修士論文作成の過程から研究能力を向上させる。
特別研究 (論文指導)	大瀧 純一 (看護看護教育学専攻)	授業計画	1. 問題点の焦点化と研究課題の抽出 2. 研究計画書作成 3. データ収集 4. データ分析 5. 結果、考察 6. 論文作成
		評価方法	提出論文(90%)、論文作成への取り組み(10%)
		講義概要	各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を調査、実験などによりデータを収集し論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。
		学習目標	修士論文作成の過程から研究能力を向上させる。
		授業計画	1. 問題点の焦点化と研究課題の抽出 2. 研究計画書作成 3. データ収集 4. データ分析 5. 結果、考察 6. 論文作成
		評価方法	提出論文(90%)、論文作成への取り組み(10%)
特別研究 (論文指導)	中島 恵美子 (成人看護学)	講義概要	各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を調査、実験などによりデータを収集し論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。
		学習目標	修士論文作成の過程から研究能力を向上させる。
		授業計画	1. 問題点の焦点化と研究課題の抽出 2. 研究計画書作成 3. データ収集 4. データ分析 5. 結果、考察 6. 論文作成
		評価方法	提出論文(90%)、論文作成への取り組み(10%)
		講義概要	各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を調査、実験などによりデータを収集し論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。
		学習目標	修士論文作成の過程から研究能力を向上させる。

特別研究 (論文指導)	岸田 泰子 (母子看護学・助産学)	講義概要
		専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討をし論文作成の過程を通して研究する能力を習得する。
		学習目標
		研究課題に基づいて学術論文を作成する。
		授業計画
		1. 研究課題に応じた文献レビューを行う 2. 研究テーマを明確にする 3. 研究計画書の作成 4. 研究データ収集と分析、結果のまとめ 5. 研究結果からの考察と課題の検討
評価方法		
提出論文(90%)、論文作成への取り組み(10%)		
特別研究 (論文指導)	片桐麻州美 (母子看護学・助産学)	講義概要
		専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討をした上で研究計画を立て、論文の作成を行う。一連の研究の過程を通して研究の基礎的能力を習得する。
		学習目標
		研究課題に基づいて学術論文を作成する。
		授業計画
		1. 研究課題に応じた文献レビューを行う 2. 研究テーマを明確にする 3. 研究計画書の作成 4. 研究データ収集と分析 5. 結果と考察 6. 論文作成 以上の内容を30回で実施する。
評価方法		
提出論文(90%)、論文作成への取り組み(10%)		
特別研究 (論文指導)	石川 福江 (母子看護学・助産学)	講義概要
		専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討をし論文作成の過程を通して研究する能力を修得する。
		学習目標
		研究課題に基づいて研究し学術論文を作成する。
		授業計画
		1. 研究課題に応じた文献レビュー 2. 研究テーマを明確にする 3. 研究方法の検討 4. 研究計画書の作成 5. 研究データ収集と分析、結果のまとめ 6. 研究結果からの考察と課題の検討
評価方法		
提出論文(90%) 論文作成への取り組み(10%)		
特別研究 (論文指導)	大瀧 純一 (看護養護教育学専攻)	講義概要
		専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討をし論文作成の過程を通して研究する能力を修得する。
		学習目標
		研究課題に基づいて研究し学術論文を作成する。
		授業計画
		1. 研究課題に応じた文献レビュー 2. 研究テーマを明確にする。 3. 研究方法の検討 4. 研究計画書の作成 5. 研究データ収集と分析、結果のまとめ 6. 研究結果からの考察と課題の検討
評価方法		
提出論文(90%) 論文作成への取り組み(10%)		

特別研究 (論文指導)	川村 治子 (医療安全管理学)	講義概要
		研究の基礎的事項を指導し、修士論文作成のプロセスを理解させる。
		学習目標
		1. 修士論文の作成のプロセスが説明できる 2. 先行研究の文献検索ができる。 3. 研究計画の立案ができる。 4. 倫理上の注意点が理解できる。
		授業計画
		1-4. 研究テーマ・計画の検討・討論 4-8. 文献の検討・討論 9-11. 研究計画の作成・討論 12. 倫理審査申請書の作成・討論 13-14. パイロットスタディの結果の検討・討論 15-22. データの考察、研究計画の再検討・調整・討論 23-28. 論文作成・討論 29-30. プレゼンテーション・討論
		評価方法
		研究態度(50%)、論文内容(50%)
特別研究 (論文指導)	浅沼 奈美 (精神看護学)	講義概要
		学位論文作成に向けて、研究課題および方法を明確にし、自立した研究活動を展開する。
		学習目標
		研究課題および方法を明確にする。
		授業計画
		1. 先行研究の検討 (12回) 2. フィールドの選定 (8回) 3. 研究計画書の作成 (10回)
		評価方法
		受講態度(50%)・研究計画書(50%)
特別講義 I (がんの病因・病態生理学)	中島 恵美子 (成人看護学)	P. 184 参照
特別演習 I (ターミナルケア)	中島 恵美子 (成人看護学)	講義概要
		終末期にある患者と家族の療養生活のQOL向上に必要とされる看護援助が実践できる能力を修得する。
		学習目標
		1. 患者・家族の価値を尊重した看護展開を学ぶ。 2. 患者の全人的苦痛を緩和する技術を修得する。 3. 患者とその家族の喪失における悲嘆プロセスを援助することができる。
		授業計画
		1. ガイダンス 2. ターミナルケアの国内外の現状 3. ターミナル期におけるチーム医療 4. 在宅におけるターミナルケア 5. ターミナル期にある患者の症状緩和(事例展開)(2回) 6. ターミナル期にある患者・家族の意思決定を支える援助(事例展開)(2回) 7. 喪失体験と悲嘆プロセス 8. 患者・家族の喪失における悲嘆プロセスに対する援助(事例展開)(2回) 9. グリーフケア(家族相談技術)(2回) 10. ターミナル期にある患者の倫理的問題に対する援助(事例展開)(2回)
		評価方法
		参加度(30%)、プレゼンテーション(30%)、課題レポート(40%)

看護学専攻 博士後期課程

1. 基礎看護科学分野

授業科目	担当者	講義概要
看護教育学A	今留忍 (基礎・在宅看護学)	各国の看護教育の歴史の変遷と制度についてレビューするとともに、わが国の教育制度を踏まえて、看護教育のあり方を検討する。さらに、看護学教育における国内外の課題について分析し、研究の動向と課題を探究する。また、保健師助産師看護師法等の改正に注目し、看護専門職の資質能力の一層の向上を図るための「看護学基礎カリキュラム」の構築を試みる。
		学 習 目 標
		1. 看護専門職者を育成するための看護学教育の方法を論述する。 2. 看護教育学の動向および課題を熟知する。 3. 「看護学基礎カリキュラム」の素案を作成する。
		授 業 計 画
		1. ガイダンス、学習計画の立案 2. 各国の看護教育の歴史の変遷と制度に関連する文献検討 (2回) 3. わが国の教育制度に関連する文献検討 (2回) 4. 看護専門職者を育成するための看護学教育の方法に関するディスカッション 5. 看護学教育における課題に関連する文献検討 6. 看護学教育における今日的課題に関するディスカッション 7. 大学における看護学基礎カリキュラムに関連する文献検討 (2回) 8. 今後の大学における看護系人材のあり方に関するディスカッション (2回) 9. 「看護学基礎カリキュラム」の素案作成 (3回) (30回実施)
評 価 方 法	授業への参加(40%)・プレゼンテーション(40%)・レポート(20%)	
看護教育学B	今留忍 (基礎・在宅看護学)	看護ケアの確立における今日的課題を看護学教育の観点から分析し、教育方法論を検討する。また、教育者、学習者、教育方法、教育プログラム、教育評価に関する研究論文を通して、研究者や専門職者との交流を通して、看護教育学領域における動向と課題を探究する。
		学 習 目 標
		1. 質の高い看護ケアの確立を目指すための看護学教育の考え方や方法を論述する。 2. 看護の教育的な機能、効果的な教育方法、教育者の質向上などに関する概念を説明する。 3. 看護教育学方法論の研究の動向と課題を明確化する。
		授 業 計 画
		1. ガイダンス、学習計画の立案 2. 看護教育学の目的と本質 3. 看護教育カリキュラムの概念(2回) 4. 看護教育カリキュラムに関連する文献検討 5. 看護教育カリキュラムの動向と課題 6. 教育・学習理論 7. 学習と教授の概念 8. 学習プログラムと評価の概念 9. 教育倫理 10. アンドラゴジーの考え方や必要性 11. 看護基礎教育と継続教育に関する文献検討 12. 看護専門職者とキャリア教育・開発のための方法(2回) 15. まとめ
評 価 方 法	授業への参加(40%)・プレゼンテーション(40%)・レポート(20%)	
看護管理学	福井 トシ子	看護管理の定義や看護管理の展開の仕方を、組織論、組織行動論、人的資源管理論、看護サービス論、経営管理論などの知識を踏まえて学ぶ。
		学 習 目 標
		1. 看護管理に必要な基礎的知識を習得する。 2. 看護管理に関係する診療報酬体系について習得する。 3. 看護を展開する場の特徴を踏まえた看護管理の展開方法を習得する
		授 業 計 画
		1. ガイダンス 2. 組織論(組織の定義、組織デザイン、組織構造、組織成果など) (2回) 3. 組織行動論(変革理論、コンテンジェンシー理論など) (2回) 4. 人的資源活用論(人材の確保と採用、配置と活用、教育、キャリア発達支援) (3回) 5. 看護サービス論 (診療報酬体系とサービスを提供する場の理解、看護の質を測定する指標の理解) (2回) 6. 経営管理論(医療制度と経営管理、診療報酬体系と管理の実際) (2回) 7. 自己課題の発表 (2回) 8. まとめ
評 価 方 法	受講態度(20%)、レポート(60%:授業計画2で1回、3で1回、4で1回、5で1回、6で1回、7で1回 計6回のレポート)、学習カードの提出(15回提出10%)、口頭試問(10%)	

医療安全管理学A	川村 治子 (医療安全管理学)	講義概要	医療安全管理の歴史、諸外国の医療安全対策、組織横断的な医療安全取り組みの実際を通じて医療安全管理の考え方を教授する。また、医療訴訟の法的論点についても教授する。														
		学習目標	国内外の医療安全の潮流を理解し、医療安全管理の考え方と実務知識を習得する。														
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 医療安全問題の歴史と潮流</td> <td>2. 国内外の医療安全の取り組み</td> </tr> <tr> <td>3. 病院における医療安全管理体制(2回)</td> <td>4. 看護事故防止教育のあり方(2回)</td> </tr> <tr> <td>5. 診療の補助業務の事故防止の考え方(2回)</td> <td>6. 日常生活援助の事故防止の考え方(2回)</td> </tr> <tr> <td>7. 医療訴訟の法的論点(4回)</td> <td>8. まとめ (30回実施)</td> </tr> </table>	1. 医療安全問題の歴史と潮流	2. 国内外の医療安全の取り組み	3. 病院における医療安全管理体制(2回)	4. 看護事故防止教育のあり方(2回)	5. 診療の補助業務の事故防止の考え方(2回)	6. 日常生活援助の事故防止の考え方(2回)	7. 医療訴訟の法的論点(4回)	8. まとめ (30回実施)						
		1. 医療安全問題の歴史と潮流	2. 国内外の医療安全の取り組み														
		3. 病院における医療安全管理体制(2回)	4. 看護事故防止教育のあり方(2回)														
		5. 診療の補助業務の事故防止の考え方(2回)	6. 日常生活援助の事故防止の考え方(2回)														
7. 医療訴訟の法的論点(4回)	8. まとめ (30回実施)																
評価方法	受講態度(30%)、レポート(40%)、口頭試問(30%)																
講義概要	医療安全管理の歴史、諸外国の医療安全対策、組織横断的な医療安全取り組みの実際を通じて医療安全管理の考え方を教授する。医療訴訟の法的論点についても教授する。																
学習目標	国内外の医療安全の潮流を理解し、医療安全管理の考え方と実務的知識を修得する。																
医療安全管理学B	川村 治子 (医療安全管理学)	授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. わが国の医療安全対策の流れ(2回)</td> <td>2. 病院における医療安全管理の実際(3回)</td> </tr> <tr> <td>3. 産業界の安全対策</td> <td>4. 医療事故の法的問題(3回)</td> </tr> <tr> <td>5. 看護師がからむ医療訴訟(2回)</td> <td>6. テーマに基づき発表</td> </tr> <tr> <td>7. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>	1. わが国の医療安全対策の流れ(2回)	2. 病院における医療安全管理の実際(3回)	3. 産業界の安全対策	4. 医療事故の法的問題(3回)	5. 看護師がからむ医療訴訟(2回)	6. テーマに基づき発表	7. まとめ							
		1. わが国の医療安全対策の流れ(2回)	2. 病院における医療安全管理の実際(3回)														
		3. 産業界の安全対策	4. 医療事故の法的問題(3回)														
		5. 看護師がからむ医療訴訟(2回)	6. テーマに基づき発表														
		7. まとめ															
		評価方法	受講態度(30%)、レポート(40%)、口頭試問(30%)														
講義概要	医療従事者はその専門職としての技術的完成度に加えて、研究や医療の現場で直面する様々な葛藤に対して「高い倫理観」を持って対処することを求められる。しかし、この「倫理観に基づく判断」とは何か、またどのように倫理観を涵養するのかわかると困惑せざるを得ないのではないか。医療における倫理判断には基盤となる科学的・法的・倫理/哲学的知識に加えて、各人の経験と感性に裏付けられた熟成が必要である。本講義では必須の知識基盤としての幾つかの倫理的思考法について概説し、さらに研究倫理と医療倫理について、歴史的な事例と現代的な事例に基づいて解析考察することで、倫理的判断を形成する過程について考察する。																
学習目標	本講義では受講者各人が何らかの形で倫理的判断に関与することを前提に、 1. 倫理的判断に必須の知識基盤を形成する手段 2. 知的基盤に基づいて判断する手段 を体得することを目標とする。																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 生命倫理の基礎：徳倫理学</td> <td>2. 生命倫理の基礎：義務論</td> </tr> <tr> <td>3. 生命倫理の基礎：功利主義</td> <td>4. 生命倫理の基礎：新しい倫理</td> </tr> <tr> <td>5. 問題点の整理</td> <td>6. 研究倫理：その形成と発展</td> </tr> <tr> <td>7. 研究倫理：歴史的事例の解析と検討</td> <td>8. 研究倫理：現代的事例の解析と検討</td> </tr> <tr> <td>9. 研究倫理：具体的事例についての討論</td> <td>10. 問題点の整理</td> </tr> <tr> <td>11. 医療倫理：その形成と原理</td> <td>12. 医療倫理：歴史的事例の解析と検討</td> </tr> <tr> <td>13. 医療倫理：現代的事例の解析と検討</td> <td>14. 医療倫理：具体的事例についての討論</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>	1. 生命倫理の基礎：徳倫理学	2. 生命倫理の基礎：義務論	3. 生命倫理の基礎：功利主義	4. 生命倫理の基礎：新しい倫理	5. 問題点の整理	6. 研究倫理：その形成と発展	7. 研究倫理：歴史的事例の解析と検討	8. 研究倫理：現代的事例の解析と検討	9. 研究倫理：具体的事例についての討論	10. 問題点の整理	11. 医療倫理：その形成と原理	12. 医療倫理：歴史的事例の解析と検討	13. 医療倫理：現代的事例の解析と検討	14. 医療倫理：具体的事例についての討論	15. まとめ	
1. 生命倫理の基礎：徳倫理学	2. 生命倫理の基礎：義務論																
3. 生命倫理の基礎：功利主義	4. 生命倫理の基礎：新しい倫理																
5. 問題点の整理	6. 研究倫理：その形成と発展																
7. 研究倫理：歴史的事例の解析と検討	8. 研究倫理：現代的事例の解析と検討																
9. 研究倫理：具体的事例についての討論	10. 問題点の整理																
11. 医療倫理：その形成と原理	12. 医療倫理：歴史的事例の解析と検討																
13. 医療倫理：現代的事例の解析と検討	14. 医療倫理：具体的事例についての討論																
15. まとめ																	
評価方法	受講態度(50%)、レポート(50%)、口頭試問(行わない) 特に受講時の積極性、リーダーシップ、レポートにおいては思索性を高く評価する。																
統計学I	照屋 浩司 (公衆衛生学)	講義概要	自然科学分野の研究において、研究方法・調査方法の決定や得られたデータを客観的に評価するためには、統計学的手法を適切に利用することが重要である。本講では、数式などだけでなく、集団のデータの基本的な取り扱いの考え方や手法について、自身の研究や文献の抄読に役立てるための基本事項の解説と模擬データを用いた演習を実施する。統計解析用アプリケーションとしては主にSPSSの使用を予定している。														
		学習目標	自身の研究や文献の抄読に役立てるために、生物統計学の基本的な考え方や手法を理解する。														
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 調査技法</td> <td>2. 統計学的解析の基礎 (2回)</td> </tr> <tr> <td>3. クロス表分析</td> <td>4. 平均値の差の検定と分散分析 (2回)</td> </tr> <tr> <td>5. 相関と回帰</td> <td>6. 多変量解析 (2回)</td> </tr> <tr> <td>7. エクセルを用いた統計処理 (2回)</td> <td>8. SPSSを用いた統計処理 (3回)</td> </tr> <tr> <td>9. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>	1. 調査技法	2. 統計学的解析の基礎 (2回)	3. クロス表分析	4. 平均値の差の検定と分散分析 (2回)	5. 相関と回帰	6. 多変量解析 (2回)	7. エクセルを用いた統計処理 (2回)	8. SPSSを用いた統計処理 (3回)	9. まとめ					
		1. 調査技法	2. 統計学的解析の基礎 (2回)														
		3. クロス表分析	4. 平均値の差の検定と分散分析 (2回)														
		5. 相関と回帰	6. 多変量解析 (2回)														
7. エクセルを用いた統計処理 (2回)	8. SPSSを用いた統計処理 (3回)																
9. まとめ																	
評価方法	受講態度 (60%)、レポートないし口頭試問 (40%)																
講義概要	自然科学分野の研究において、研究方法・調査方法の決定や得られたデータを客観的に評価するためには、統計学的手法を適切に利用することが重要である。本講では、数式などだけでなく、集団のデータの基本的な取り扱いの考え方や手法について、自身の研究や文献の抄読に役立てるための基本事項の解説と模擬データを用いた演習を実施する。統計解析用アプリケーションとしては主にSPSSの使用を予定している。																
学習目標	自身の研究や文献の抄読に役立てるために、生物統計学の基本的な考え方や手法を理解する。																

英語論文作成法	山本 真智子 (医療科学 I)	講義概要	This course is an introductory-level, course requires reading and writing. Emphases are on development of basic writing skills, essay, and paper. The goal of this course is to help students write final research paper's abstract.
		学習目標	To introduce graduate student to various type of essay and paper. To introduce graduate student to use proper English. To provide practice in writing English, and help students acquire basic English vocabulary.
		授業計画	The course will cover the following topics: 1. Introduction, Difference between Essay and Paper 2. Write essay (interested topic) 3. Write essay (statement purpose) 4. Paragraph and topic sentence (writing) 5. Supporting topic sentence (writing) 6. Types of enumeration (writing) 7. Cause and effect structural signals and paraphrasing (writing) 8. Paraphrasing (writing) 9. Time Clues (writing) 10. Comparison and contrast (writing) 11. Method of contrast 12. Definition 13. From paragraph to composition 14. Quantitative research 15. Review
			1. 健康とは何かを考える 2. 遺伝学の基礎(2回) 3. 代表的遺伝性疾患(2回) 4. 遺伝看護とは 5. 遺伝カウンセリング入門 6. 生殖補助医療と出生前診断、遺伝子治療 7. 医療と倫理 8. 事例検討(3回) 9. 遺伝カウンセリング ロールプレイ(2回) 10. 遺伝病との共生、医療の役割
			受講態度(50%)、レポート(50%)、Because this is a writing course, your entire grade is determined by your writing.

II. 実践看護科学分野

授業科目	担当者	講義概要
成人看護学A	中島 恵美子 (成人看護学) 加賀谷 聡子 (成人看護学)	成人期の疾病治療を経験した患者を対象に、急性期から慢性期における、その個人や家族の体験を明らかにし、セルフマネジメントや緩和ケアなどの看護支援技術の開発と体系化をはかるための研究を行い、国内外の学術誌に発表し自立して研究できる能力を習得する。
		学習目標
		1. 関心領域に基づくケア対象物の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例よりその領域における研究課題を明らかにする。 2. がん看護およびクリティカルケア看護に関する研究プロジェクトに参加し、その準備と研究過程を学ぶ。 3. 国内外の学会および学術誌に発表し研究者としての資質を養う
		授業計画
		1. 治療を受ける患者および家族のケアに関する研究の国際的動向からわが国の特長と課題の明確化 2. 各自の関心領域におけるケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例の検討 3. 2. の検討結果より研究課題の明確化 4. がん看護およびクリティカルケア看護に関する研究プロジェクトの準備とその研究過程 5. 国内外の学会および学術誌への論文などの作成・発表の進め方 以上の内容を30回で実施する
		評価方法 受講態度(50%)、プレゼンテーション(50%)
成人看護学B	中島 恵美子 (成人看護学) 加賀谷 聡子 (成人看護学)	成人期の看護の対象者および家族の体験を明らかにし、主としてセルフマネジメントや緩和ケアに関する看護支援技術の開発と体系化について、国内外の研究から学ぶ。
		学習目標
		関心領域に基づくケア対象物の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例よりその領域における研究課題を明らかにする。
		授業計画
		1. 治療を受ける患者および家族のケアに関する研究の国際的動向からわが国の特長と課題の明確化 2. 各自の関心領域におけるケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例の検討 3. 2. の検討結果より研究課題の明確化 以上の内容を15回で実施する。
		評価方法 受講態度(50%)、プレゼンテーション(50%)

精神看護学A	大瀧 純一 (看護養護教育学専攻)	講 義 概 要	統合失調症とうつ病について、臨床症状を生物学的な面から見る。
		学 習 目 標	1. 統合失調症について臨床症状を生物学的な面から理解する。 2. うつ病について臨床症状を生物学的な面から理解する。
		授 業 計 画	1. 脳内における5HT、カテコラミンなどの作用 2. 神経伝達物質とは 3. クレベリン、プロイアー、シュナイダーの考え方 4. 精神分析とDSM 5. 行動と脳の関係 6. 認知と脳の関係 7. 統合失調症とうつ病の前駆症状 8. 統合失調症の急性期症状 9. 統合失調症の慢性期症状 10. うつ病の臨床経過 11. 統合失調症の急性期症状と向精神薬 12. 統合失調症の慢性期症状と向精神薬 13. うつ病の臨床経過と向精神薬 14. 統合失調症と認知機能障害 15. うつ病と認知機能障害 (30回実施)
		評 価 方 法	
		受講態度(50%)、レポート(30%)、口頭試問(20%)	
精神看護学B	大瀧 純一 (看護養護教育学専攻)	講 義 概 要	神経症と心因反応について、臨床症状を生物学的な面から見る。
		学 習 目 標	1. 神経症について、臨床症状を生物学的な面から理解する。 2. 心因反応について、臨床症状を生物学的な面から理解する。
		授 業 計 画	1. 脳の構造について 2. 脳の機能について 3. 脳と心について 4. 脳の機能と行動について 5. 精神分析と脳について 6. 意識と無意識について 7. 神経症とは 8. 心因反応とは 9. うつ病と抑うつについて 10. 精神科領域における正常と異常について 11. 臨床症状と向精神薬について (1) 12. 臨床症状と向精神薬について (2) 13. 臨床症状と向精神薬について (3) 14. 臨床症状と向精神薬について (4) 15. 臨床症状と向精神薬について (5)
		評 価 方 法	
		受講態度(50%)、レポート(30%)、口頭試問(20%)	
地域看護学A	大木 幸子 (地域看護学) 太田 ひろみ (看護養護教育学専攻) 山口 佳子 (地域看護学)	講 義 概 要	受講生が各自のフィールドにおいて、地域看護領域に関するテーマを設定し、保健福祉行政サービスにおける看護の特質について討議し考察を深める。
		学 習 目 標	1. 地域で生活する人々の健康課題とその関連要因を探求し、解決のための個人・家族、集団、地域への支援、評価を担いうる能力を習得する。 2. 個地域の健康支援に寄与しうる研究を行うために必要な能力を習得する。
		授 業 計 画	(1セメスター) 1. 地域看護実践における個人・家族への支援に関する理論及び技術を学ぶ。(5回, 大木) 2. 地域看護実践における地域診断に関する理論及び方法論を学ぶ。(5回, 太田) 3. 地域看護実践における課題解決過程から施策化への展開過程を学ぶ。(5回, 山口) (2セメスター) 4. セルフエンパワメント、グループエンパワメント、コミュニティエンパワメントの概念と関連について学ぶ。(5回, 大木) 5. ソーシャルキャピタルの概念及び健康へ与える要因について学ぶ。(5回, 太田) 6. 地域の健康課題への研究的接近方法について学ぶ。(5回, 山口)
		評 価 方 法	
		プレゼンテーション(60%)、参加度(40%)	

地域看護学B	大木 幸子 (地域看護学) 太田 ひろみ (看護義護教育学専攻) 山口 佳子 (地域看護学)	講義概要 健康と生活、地域のつながりを理解し、個人及び家族、集団、地域への支援方法を学ぶ。
		学習目標
		地域で生活する人々の健康課題とその関連要因を探索し、解決のための個人・家族、集団、地域への支援、評価を担う能力を習得する。
		授業計画
		1. 地域看護実践における個人・家族への支援に関する理論及び技術を学ぶ。(5回, 大木) 2. 地域看護実践における地域診断に関する理論及び方法論を学ぶ。(5回, 太田) 3. 地域看護実践における課題解決過程から施策化への展開過程を学ぶ。(5回, 山口)
評価方法 プレゼンテーション(60%)、参加度(40%)		
母性看護学	岸田 泰子 (母子看護学・助産学)	講義概要 女性の性と生殖における対象の特性と問題状況の特性を理解し、専門的ケア提供を行うための基礎的能力を修得する。対象の特性や看護問題を理解し、専門的ケアを提供する方法を修得する。
		学習目標
		1. リプロダクティブヘルス/ライツの意義を理解し日本及び諸外国の現状について理解する。 2. 人間のセクシュアリティの特徴を理解し、ライフサイクル各期に起こりやすい問題を把握し援助のあり方を考察する。
		授業計画
		1-5. 女性の健康とリプロダクティブヘルス/ライツ 6-10. 人間の健康とセクシュアリティ 11-15. 健康課題を持つ患者・家族の看護支援
評価方法 受講態度(50%)、レポート(50%)		
小児看護学	石川 福江 (母子看護学・助産学)	講義概要 小児看護学の基盤となる理論を理解するとともに、子どもとその家族のもつ看護の問題を解決するための看護援助方法や研究方法について探求する。
		学習目標
		子どもと家族の健康問題と諸現状を理解する上で重要になる理論や研究の動向を学び、子どもと家族に対する援助方法とその効果の検証について理解する。
		授業計画
		1. 子どもと家族の関心領域における実践、研究、教育の動向 2. 子どもと家族の関心領域における中心概念の文献的考察 3. 子どもと家族の関心領域における研究方法の検討 以上の内容を15回で実施する。
評価方法 受講態度(40%) レポート(40%) プレゼンテーション(20%)		

III. ジャーナルクラブ I

授業科目	担当者	講義概要
ジャーナルクラブ I	大瀧 純一 (看護義護教育学専攻)	欧米の精神科領域の雑誌を読む。
		学習目標 欧米の精神科領域の雑誌を読み、内容を把握することができる。
		授業計画
		1. 統合失調症に関する論文を読み、理解する (5回) 2. うつ病に関する論文を読み、理解する (3回) 3. 神経症に関する論文を読み、理解する (3回) 4. 認知症に関する論文を読み、理解する (3回) 5. アメリカにおける精神科看護師に関する論文を読み、理解する
		評価方法 受講態度(30%)、レポート(50%)、口頭試問(20%)
ジャーナルクラブ I	今留 忍 (基礎・在宅看護学)	講義概要 看護の専門職確立に向け、看護学に関する国内外の研究論文を講読する。諸外国との比較により、わが国における課題を明らかにし、研究への示唆を得る。
		学習目標 1. 英文論文を精読する。 2. 諸外国における看護学の動向および現状を理解する。
		授業計画
		1. 諸外国の看護学教育に関する文献購読(5回) 2. 上記のプレゼンテーション・討議(2回) 3. 諸外国の看護の動向に関する文献購読(5回) 4. 上記のプレゼンテーション・討議(2回) 5. まとめ
		評価方法 授業への参加(50%)・プレゼンテーション(50%)

特別研究 I	大木 幸子 (地域看護学)	講義概要
		博士論文作成にむけ研究課題の明確化や研究課題に応じた研究手法など、自立した研究活動のための研究方法論を習得する。
		学習目標
		研究計画書を作成する。
		授業計画
		1. 研究課題の探求(8回) 2. 研究課題に関する先行文献の検討(8回) 3. 研計画に関する倫理的問題の検討(4回) 4. 研究計画書の作成(10回)
評価方法		
受講態度(40%)、プレゼンテーション(20%)、研究計画書(50%)		
特別研究 I	川村 治子 (医療安全管理学)	講義概要
		博士論文作成のための研究計画立案-データ収集、結果の考察に至るプロセスを指導する。
		学習目標
		1. 博士論文の作成のプロセスが説明できる 2. 先行研究の文献検索ができる。 3. 研究計画の立案ができる。 4. 倫理上の注意点が理解できる。 5. 論理的にデータの考察ができる。
		授業計画
		1-4. 研究テーマ・計画の検討・討論 4-8. 文献の検討・討論 9-11. 研究計画の作成・討論 12. 倫理審査申請書の作成・討論 13-14. パイロットスタディの結果の検討・討論 15-22. データを考察し、研究計画の再検討・討論 23-28. 論文作成・討論 29-30. プレゼンテーション・討論
評価方法		
研究態度(50%)、論文内容(50%)		
特別研究 I	中島 恵美子 (成人看護学)	講義概要
		論文作成に関する研究課題の明確化と研究手法を学び、研究活動ができるにする。
		学習目標
		研究課題を明確にし研究計画書を作成する。
		授業計画
		1. 研究課題の追求 2. 研究課題に従った先行研究の分析 3. 研究計画書の作成 以上の内容を30回で実施する。
評価方法		
受講態度(50%)、研究計画書(40%)、プレゼンテーション(10%)		
特別研究 I	浅沼 奈美 (精神看護学)	講義概要
		学位論文作成に向けて、研究課題および方法を明確にし、自立した研究活動を展開する。
		学習目標
		研究課題および方法を明確にする。
		授業計画
		1. 先行研究の検討 (12回) 2. フィールドの選定 (8回) 3. 研究計画書の作成 (10回)
評価方法		
受講態度(50%)・研究計画書(50%)		